

特集

リハビリテーション・ 介護領域における ICT の活用

高齢社会を迎え、障害者の自立のみならず、一般高齢者の介護予防にまで、リハビリテーション従事者に対する期待は大きい。本特集では、事例として認知症対策、高齢者運動促進、コミュニケーションロボット、発達障害児支援などの各領域の ICT (information and communication technology) 活用例を挙げ、現状と課題、展望などについてご解説いただいた。

認知症ケア 浦上克哉……………1045

本邦に認知症は 462 万人、軽度認知障害は 400 万人と報告され、認知症は糖尿病などと同様に国民病として対応しなければならない病気である。そのようななか、認知症ケアの充実が期待されるが、その向上に ICT も期待される。認知症の早期ケアを目的として、認知症のスクリーニング機器や詳細な評価および治療・介入の評価機器 (TDAS プログラム) を用いた実践を紹介している。また、認知症ケアを行うロボットや多職種協働への ICT 活用などにも触れている。認知症ケアのスタートとして、認知症の早期診断は不可欠であり、もの忘れ相談プログラムや TDAS は有用と考えられ、ICT 活用の発展性はあり今後期待できるものと思われる。

在宅医療—ICT を用いた在宅遠隔医療の現状と取り組み 中村昭則……………1049

在宅医療が厚生労働省の医療施策として推進され、在宅医療にかかわる多施設、多職種の連携の重要性がますます謳われるようになってきている。在宅医療者、専門医療機関、療養支援者間で随時かつシームレスに情報共有を行えるシステムの構築が重要である。信州大学医学部附属病院では在宅療養支援として訪問診療を行ってきたが、緊急時や 24 時間対応が行える体制にはなっておらず、情報共有も紙媒体で行われていた。そこで、同院総合遠隔診療室では、在宅療養中の患者・家族、在宅療養支援者、医療機関の間で情報共有を可能にしたモバイルタブレット端末を用いた在宅電子チームケアシステムを開発してきた。本稿では、ICT を利用した電子チームケアシステム、遠隔コミュニケーション、人工呼吸器の遠

ニュース メダリスト凱旋—五輪、初の合同パレード……………1056

病棟がプラネタリウム—入院患者ら笑顔 (上越・さいがた医療センター)……………1056

ノーベル医学・生理学賞、大隈良典氏が 29 年ぶりの日本人単独受賞

—受賞理由は「オートファジーの仕組みの発見」……………1069

鳥取県中部で地震—福祉施設 59 か所が被害……………1106

「ノーマライゼーション 障害者の福祉」10 月号・特集目次……………1106

ガイドブック改訂—市町村のバリアフリー化 (国土交通省)……………1114

障害者雇用、合理的配慮で手引き—文京学院大学が作成……………1123

入浴用椅子に注意—サビて転倒事故も (国民生活センター)……………1128

隔アラートシステムなどについて紹介している。

コミュニケーションロボット 濱 昌代……………1057

「コミュニケーションロボット」は、2003年に経済産業省によって開催された次世代ロボットビジョン懇談会の配布資料において、非産業用ロボットの生活分野項目の1つに分類されている。本稿では、「言語的のみならず非言語的なものも含むコミュニケーションを目的もしくは手段として用いるロボットの総称」をコミュニケーションロボットと定義し、リハビリテーションや介護領域における活用の現状を紹介し、今後の課題と展望について考察している。

ICTによる認知機能測定—子どもから高齢者まで 橋本圭司……………1064

発達障害者は60万人（2012年文部科学省調査）、高次脳機能障害者は50万人（2008年東京都調査）、認知症は462万人（2012年厚生労働省研究班調査）と推計されている。子供から高齢者まで、何らかの認知機能（高次脳機能）の問題を抱えた人々の人口は、わが国で実に600万人近くもいることになる。本稿では、筆者らが10年来行ってきたICTによる発達障害児、高次脳機能障害者、高齢者を対象とした認知機能測定の試みを紹介している。

高齢者自身がICTを活用する—地域高齢者活躍支援のこれから 堀池喜一郎……………1071

超高齢社会に突入したわが国では、ICTを用いた高齢者運動促進に期待が持たれている。本稿では、リハビリテーションケアのレセプターの立場である筆者が「高齢者活躍支援」の研究会などに参加し、さらには高齢者が「自らICTを活用して楽しむ実証実験」に参加した経験から「これからの高齢者“活躍”支援」について論じている。

書評 日常生活から高次脳機能障害を理解する—認知関連行動アセスメント（評者：種村純）……………1084

お知らせ CRASEED 講習会・セミナー……………1095

日本リハビリテーション連携科学学会第18回大会……………1106